

令和7年度第1回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和7年6月26日（木）13：30～15：10

場 所 事務局第一会議室及びMicrosoft Teams 併用

出席者 [会議室] 坂井学長、石井理事、野中理事、木崎理事、中村理事

栗原委員、平本委員、真下委員、山名委員

[Teams] 市川理事、利根委員、萩原委員、堀光委員

欠席者 吉田委員

陪席者 [会議室] 小俣監事、山中監事、田代副学長、重原理工学研究科長

[Teams] 市橋副学長、川合副学長、長澤副学長、福島副学長、伊藤副学長、水村
人文社会科学研究科長、井原経済学部長、戸部教育学部長、若狭理学部長、
奥井工学部長

○ 学長から、吉田委員が本会議を欠席する旨報告があった。

○ 令和6年度第5回議事要録の確認について（資料1）

令和6年度第5回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

○ 審議事項

1 役員期間における退職手当の業績勘案率について

木崎理事から、資料2に基づき、「埼玉大学における役員退職手当の業績勘案率の基準」により業績勘案率を算出し、退職手当を決定したい旨の説明があり、審議の結果、承認された。

また、小俣監事から、本件の審議時期に関して意見が述べられ、これに対し木崎理事から、過去の経緯を確認した上で、今後見直しを検討する旨の発言があった。

2 令和6事業年度決算について

木崎理事から、資料3に基づき、令和6事業年度決算の概要について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 決算や財務諸表に関する情報について、同規模の国立大学（Hグループ）との比較資料も、今後示していただきたい。

△ 次回の会議でお示ししたい。

3 令和8年度概算要求について

木崎理事から、資料4に基づき、令和8年度概算要求における教育研究組織改革分及び共通政策課題分の概要について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 教育研究組織改革分で新規要求を予定している「ALL SAITAMA ミライ機構」に係る事業について、スタートアップ支援に関する記載がある。埼玉県が今夏に開設するイノベーション創出拠点「渋沢 MIX」との連携を含め、ネットワークを強化し、スタートアップの創出に繋がることを期待している。また、同構想において「熊谷サテライトオフィス」の新設が示されているが、その狙いについて説明願いたい。

△ 埼玉県の「渋沢 MIX」とは、ぜひ連携を進めていきたいと考えている。また、「熊谷サテライトオフィス」新設の狙いについては、県北部の要衝として埼玉県の関連施設が多く立地していることに加え、同機構で立ち上げを計画している「シン世代農業」研究プロジェクトにおいて、埼玉県農業技術研究センターとの共同研究を予定していることから、具体的な場所は未定だが、熊谷を設置候補地として構想している。

☆ 埼玉県中部の中山間地域に居住する者として、昨今の気候変動やコメ不足の問題を通じ、地域農業の抱える課題を強く実感している。本構想においても、ぜひ農業・林業の問題に取り組んでいただきたい。埼玉大学の卒業生が地域の課題解決に貢献していくことを期待したい。

△ 本学には農学部はないものの、スマート農業に関する研究や、本学が強みを有する植物関連の研究分野を通じて、地域に貢献できればと考えている。こうした取組を通じて農業の魅力を高め、都市部から地方へ若者の流れが生まれるような展開を期待している。

☆ 近頃、探求学習の一環で地域課題の解決に取り組む中高生が増加している。東京では『Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE：ジータイ)』というプラットフォームが立ち上がり、都内の大学を中心にアントレプレナーシップ教育やスタートアップ支援に中高生も巻き込んだ取組が進められている。貴学においても、このような視点を取り入れることで、中学・高校を含めた地域との繋がりが一層 広がるのではないかと考えるが、見解を伺いたい。

△ 本学では、GTIE に相当する組織として、信州大学が主幹機関となっている「Inland Japan Innovation Ecosystem(通称：IJIE(アイジー))」というプラットフォームに参画している。アントレプレナーシップ教育については、今年度から取り組みを開始しているが、現時点では中高生までは対象としておらず、今後は、紹介のあった取組にも発展させていければと考えている。

△ 理工学研究科では、長年にわたり中高生を対象とした理工学教育に係るプログラムに取り組んでいる。プログラムでは、理工学の専門知識に加え、起業家精神の涵養を目的として、実務家教員によるアントレプレナーシップ教育も実施しており、今後更に活動の幅を広げていきたい。

☆ ダイバーシティ推進センターや彩の国女性研究者ネットワークの取組は、男女

共同参画の推進の観点から非常に重要であり、埼玉大学からの更なる展開を期待したい。

○ 報告事項

1 外部資金の受入状況について

石井理事から、資料5に基づき、令和6年度における受託研究費、共同研究費及び奨学寄附金の受入状況及び令和7年度科学研究費助成事業の採択状況について説明があった。

2 リカレント教育エコシステム構築支援事業への採択について

石井理事から、資料6に基づき、文部科学省の「リカレント教育エコシステム構築支援事業」に、本学から申請した「産学官金協働による『彩の国 Komvux プラットフォーム』」事業が採択された旨の報告があった。

3 令和6事業年度長期借入金償還状況について

木崎理事から、資料7に基づき、令和6事業年度における長期借入金償還状況について説明があった。

○ その他

1 次回日程について

学長から、9月11日（木）に予定していた次回会議は書面審議に代えることとし、急を要する議題が生じた場合には、別途日程を調整のうえ開催する旨の説明があった。

2 学長候補者選考の状況について

学長から、次期学長の選考に係る一次候補者の推薦状況及び今後の選考スケジュールについて報告があった。

以上